

I 分野 第1分科会

人権確立をめざす学校・園・所づくり

司会 赤塚 紀久雄 小嶋 明人

記録 岡田 侑子 平沼 典子

報告者Ⅰ 向 洋美（淡路）

仲間づくりを通して豊かな心を育てよう
～育ちあい・つながる笑顔 心と体も健やかに～

報告者Ⅱ 神崎 律子（西播）

自分も人も大切に作る心豊かな児童の育成
～自尊感情を高め、思いやりの心を育てる
指導の工夫～

報告者Ⅲ 山中 教正（阪神）

生徒の自立活動の推進と地域との連携
～「虹色プロジェクト」の取組を通して～

研究討議の概要

〈報告Ⅰについて〉

司会 発表内容について質問はないか。

但馬 園小連携で行っていることはあるか。

報告者Ⅰ 近くに小学校がないため、交流が大変。小学校の近くにある幼稚園に送迎してもらい交流する。1年生、幼稚園、子ども園で縦割り班を編成し話し合いをしながら瓦粘土の制作を行った。校区が広い海や里山で遊ぶこともある。年間行事を立て、園児、児童の情報交換を行ったり、普段の様子を小学校の先生に観察してもらったりしている。

司会 幼・小・中の連携については、全体討議で行いたい。

但馬 脳性まひの園児への配慮や周りの園児との関わりで気をつけていることを知りたい。

報告者Ⅰ 安全面の確保が一番。使用している歩行器は他の園児が触ってはいけないなどのルールを決めている。園児は、あまり違和感なく自然にかかわっている。他の園児と同じように活動できるように支援しているが、その支援が本当にいいことなのか、体に負担はないのかなど確認している。このような支援は、障害の有無に関わらず、一人一人に合った対応が必要だと感じる。

西播 園児数、職員数の多い園で勤務している。

研修内容を自分の言葉で伝える取組が自分の園でも必要だと感じた。若い職員が多く、意見が出にくい。職員の課題はないのか。

報告者Ⅰ 先生によってさまざまな考え方があ。幼稚園と保育園でもやり方が微妙に違う。年齢や経験関係なく、みんなで話し合って決めることを大切にしている。職員間で認め合う人間関係をつくっていくことも必要。勤務体系が多様であり情報の共有が難しいが、声を掛け合っている。

西播 こども園の中で、異年齢交流を行うことは、どこも行っているのか。

報告者Ⅰ している園が多い。こども園なので、幅広い子どもを預かることができるので異年齢交流を行いやすい。

司会 発表のなかで、上の子が下の子のお世話を上手にしているのを見て感心した。他の園での状況はどうか。

但馬 核家族、一人っ子が多いため異年齢との交流を大切にしている。上の子の様子を見ながら下の子が育っている。

司会 いろいろな交流の形があると思う。小・中学校からもどんな交流をしているか教えてほしい。

但馬 園児8人の幼稚園に勤務している。大人数での生活を経験させるため、町内にある他の幼稚園5園と交流を頻繁に行っている。しかし、教師の負担が大きい。

西播 年間を通して、年少、年長でペアを組み活動している。例えば遠足、給食など。運動会のダンスでは、年長児が先に覚え、ペアの年少児に教えた。1年生と年長の交流へもつながっている。

丹波 勤務しているこども園では、10月から3回、小学校の登校班に交じって登校の練習をする。5年生が交流したり、7月の七夕会では1年生と交流したりする。

〈報告Ⅱについて〉

司会 質問はないか。

但馬 「福の日活動」が、希望者から全校に広がったのは、教師側のしかけがあったのか。

報告者Ⅱ 参加している児童に友だちも誘うよ

うに伝えていた。当初は放送があったが、今では
掲示物を見て自分で行動するようになった。

但馬 教師主導で場所を決めるのか。

報告者Ⅱ 月の行事などを考えて、教師主導で行
っている。

西播 「ライフアップスキルアップ通信」には生
徒指導や保健面のことが書かれているようだが誰
が作成しているのか。

報告者Ⅱ 部会ごとに割り振って担当教師が作
成している。学習面も記入している。

司会 自尊感情を育てたり、基本的な生活習慣の
定着をめざしたりするためにどんな取組をしてい
るか紹介してほしい。

但馬 報告校の「あたりまえの5か条」と似てい
るが、児童会が主導となり「ニコレット宣言（悪
口を言わない、自分からあいさつ、男女仲良くな
ど）」を行っている。中学校区共通で「学習のすす
め方」を作成しており、点検カードに学習時間な
どを記入させている。学校独自の取組として、毎
週木曜日には、PTAと連携して「ノーテレビ、
ノーゲーム、ノースマホ」を呼び掛け親子の時間
を大切にしている。「心のはばたき集会」という心
の優しさを育てるための集会では、地域の人に読
み聞かせをしてもらっている。前任校では、あり
がとうを伝える作文を書かせたり、人権作文を紹
介したりしていた。

但馬 養父市出身の池田草庵にちなんで第2、第
4水曜に「そうあんくんの日」を設定している。
自主性を尊重し自主性を養う活動を各こども園、
小・中学校が、地域を巻き込んで行っている取組
である。「5つの生活習慣を育もう」という取組も
市内全体で行っており、早寝早起き、あいさつ、
お手伝い、片付け、読書の習慣づけを目指してい
る。また毎週水曜日には「ノーテレビ・ノーゲー
ムデー」を設けている。

西播 年間計画を立て、こども園、小学校、中学
校の交流を行っている。子どもの交流はもちろん
職員の交流も行っている。お互いに学校を行き来
して学習・生活指導面などについて研修している。
20～30年前から続いている取組で、教員同士

が顔見知りになり話がしやすい。

司会 生活習慣の定着に向けて校種間連携して
実施しているところはどれくらいあるのか。（➡参
加者の約半数が挙手）相生市では中学校区ごと
に取り組んでいるが徹底するところには至って
いない面もある。市内全体が同一步調で行うとい
うことをしているのか。

但馬 小小連携の交流学习を年に8回行ってい
る。小規模校が集まり多人数での学習を経験させ
ることで、中1ギャップを予防している。年度末
には、解放学級の取組を行っている小学校に行き、
解放学級での学びを伝えてもらっている。

但馬 小小連携を年3回行っている。小1は、園
小の連携を行う。こども園はアプローチカリキュ
ラム、小学校はスタートカリキュラムを作成し実
施している。私立の園はカリキュラムが違ってお
り連携がしにくい。小中連携は旧町ごとに行って
いる。

西播 中学校区で生活リズムのルール作り（長期
休みの過ごし方、早寝早起き、朝ごはん、ゲー
ムの決まりなど）を行っている。幼小連携ではジョ
イントカリキュラム、スタートカリキュラムをも
とに、お互いの授業や保育を公開して研修してい
る。小中連携は、英語を中心に行っている。中学
校の授業を参観に行ったり、中学校の先生に小学
校の授業を参観してもらって意見を聞いたりして
いる。

司会 （報告者Ⅱに対して）以前は落ち着きがな
く学習に困っている児童が多かったが、現在は落
ち着いているとの発表であった。どのように変わ
ったのか具体的に教えてほしい。

報告者Ⅱ どの学年でもTT指導ができる環境が
整っている。算数はすべてTT体制で行っている。
困っている児童には休み時間にT2が指導し、短
時間だが有効な時間になっている。以前は、休み
時間に学習することを嫌がっていたが、できる喜
びを味わうことができるようになり、嫌がらない
ようになってきた。

司会 小さな取組をこつこつと少しずつ積み上
げていくことが大切なのだろう。

＜報告Ⅲについて＞

司会 質問はないか。

但馬 素晴らしい取組だと思う。生徒会が変わっていったことによって、この6年間で子どもがどのように変わっていったか。

報告者Ⅲ 例えば、以前は、鍵を教室につけて作業していたら、子どもが鍵を持って行ってしまう。挿し木をして育てているものを蹴ったり投げたりしてしまうようなことがあったが、今は、教室の出窓に植物がきれいに並んでいる。以前なら並べておけなかっただろう。今では、学校全体に安心感がある。そういうところが変わったところである。

但馬 色々な取組の中で、主体的な活動になるように子どもたちに仕掛けていくために、先生方が投げかけた言葉や統一して行ったことを教えてほしい。

報告者Ⅲ 校長が日本一の学校を目指そうと言った。先生たちの間に広まるのには時間がかかったし、蝶々を呼ぶということも初めはピンとはこなかった。しかし、粘り強く時間をかけて広まっていった。

但馬 うちも自然環境は豊かで矢田川という川が流れている。この取組を参考にして自然環境の学習にも取り組みたい。近年、児童数が減っている。そして、毎年、統合の話が出てくる。そのことに緊迫感を持っている。三田の方では、統合は身近な問題か。

報告者Ⅲ 統合の話は今年度入ってから出ている。「(今の学校が) なくなるんや。」「残念やな。」という声が子どもたちから聞かれる。統合が良いか悪いかは分からないが、子どもたちとしては残念という思いがある。

司会 討議の時間にも入っているので、質問に限らず発表内容への感想はないか。

丹波 自分は68歳で教師ではない。若い頃は差別が吹き荒れていた。その頃から部落解放をするために色々な研修会に参加してきた。そのときの感覚と今の先生たちのずれを感じる。人権意識を高める取組はよく分かるが、被差別の子ども顔

が見えてこない。篠山はまだ解放学級があり、先生と話をする機会も多い。私の持っている人権感覚と先生の感覚が大分違うと感じるときがある。若い先生の中には同和問題を学んでいない先生がいる。自分の経験や辛さを先生たちにどう話せば伝わるかなどが新しい課題であると認識している。

司会 学校、幼稚園、中学校はそれぞれ大きな課題を持ちながら邁進しているが、そのことと部落解放が通底しているか、その都度見直して差別の現実に学ぶことを忘れてはいけないと感じた。

丹波 先生としての人権を自らの問題として語ってくれたらもっと伝わるのでは。

報告者Ⅲ 本校でも開放学級はしている。解放学級をしているところはすごく少なく、全国的にも珍しいらしい。

中播磨 差別の現実、実態は見えにくい。見えにくい所から学ぶのは難しいので差別の実体験の話聞かせてもらえるのは大事なこと。教師も勉強することで子どもたちも変わっていく。一人の人間として、差別を自分の問題としてとらえ、部落差別をなくすためどうしたいのかという考えをもって子どもたちに話していくことが大事。報告の実践は差別問題とつながっている。近年、一つのことに打ち込むことができない子どもが増えている中で、蝶々のことに打ち込むことで自分の居場所ができ、変わってきたと思う。自分は必要とされている、認められている経験があれば子どもたちは変わる。差別を理不尽だと言える力は、まず、自分が大切な存在であるというふうに自分を肯定できないと出てこない。

司会 幼保・小・中の各年齢段階での学びをどうつなげるか。

報告者Ⅲ 夏休みに解放学級のフィールドワークを行い、聞き取り学習をする。小・中・幼保が一緒に行く。同じところに行っても、年齢によって理解することも心に残ることも差がある。1回行っただけで分からないこともあるが、何回も行って学習が深まる。

但馬 香美町香住区は、周辺5校で解放学級を行っている。毎年5校の先生で協議して学習内容を

進める。若手の育成、先輩から後輩に伝えるという意味も込めて、共通教材を決めて5校が集まったときに年1回はしっかり学習している。

司会 こども園、小学校、中学校の縦のつながり、横のつながりが見られる報告、討議であった。全体を通して、意見はないか。

中播磨 子どもたちが荒れているのは、そのときの学校や担任が悪いわけではない。それまでの積み重ねがカギとなるので幼・小・中の連携が極めて重要。形だけの連携でなく子どもの理解が大事。小・中で職員同士が懇意になり、子どもの情報交換を積極的に行っている。学校と幼稚園が併設されていると、新入生の情報を把握しやすく入学後の生活につなぐことができる利点もある。

丹波 つながりということ言えば、保護者と先生のつながりも大事。先生たちの学校での取組が保護者にどう伝わっているか。先生のしんどさ、保護者のしんどさもひっくるめて先生と保護者の関係も大事にしてほしい。

但馬 教師の立場で差別はいけないといいながら、私生活では差別をしてしまう「立場同和」は絶対いけないと先輩から教えられた。教師である限りは同和教育や解放学級のことなど知ったうえで教壇に立つ必要があるのではないか。また、今日の報告のように一つのことに目標を決めて実践をしたら、取組の効果があったのか評価をしていくことも大切であると感じた。

丹波 幼稚園の保護者にベトナム籍の人がいる。解放学級で外国の方々のことを学習し地域の方とも交流している。自分たちの学校を誇れる取組、子どもたちの自己肯定感を育てる取組を素晴らしいと感じた。

総括と今後の課題

本日は三つの報告があった。いずれの報告も学校園がクラスや学校に凝り固まらずにいかに開き、つながっていくかを軸にした報告であった。

報告Ⅰでは、地域の人との関わり、クラスを超えた子ども同士との関わり、保護者への関わり

で、一つのクラスに固まらずに様々な広がり求めてきた取組であった。

報告Ⅱでは、様々な部会にボランティアを導入した取り組みやクラスを超えた取組を設定し、クラスや学年、地域を越えて様々に開いて活動してきた。

報告Ⅲでは、舞鶴の中学校とのつながりをきっかけに、フジバカマを小・中学校、公共施設に配っていきながら、取組をどんどん広げていった。広げた活動が、地域や家庭を巻き込みつつ、子どもたちの自尊感情を高め、主体性を広げることにつながった。

一方、家庭・地域の教育力が話題になっている。学校・園だけが開くということが大事なのではなく、それぞれの学校・園、教師が核となって地域や家庭と共に歩み、子どもたちを育む必要性が今日の報告から感じられた。

そして、開けば何でも良いのではなく、どんな活動をさせるのか、どのような経験子どもたちは積み重ねているのか、どのようなことを子どもたちは学び取ったのかを精度をもって高めていくことが重要。また、取組に対しての評価は教師だけでなく、地域からの評価もいきていく。今後、開きながら地域と連携をすることを基本に、子どもの自尊感情を高めるのにどうしていくか、職員集団のあり方をどうしていくかをしっかり考え、取り組むことを来年度に期待したい。

兵庫県では、学校の取り組みだけでなく、解放学級の取組でも、子どもたちが横につながりながら中学校に向かう開かれた育み方が行われているところがあるのが素晴らしいことだと思う。

組織をしっかりと固め、その取組がどうだったのか、色々な観点で見直しながら地に足をつけた取組を進めていかなければいけない。